

Dream IT, Create IT, Architect your Business!

小さくても勝てる

—ITコーディネータ協会認定番号:ITCC-CP020009—

人、金、もので劣っていても情報で他社に勝つ

2014年国際システム監査協会グローバルジャーナルにて成果掲載
2012年日科技連主催国際シンポジウムにて事例発表

経営に貢献するテクノロジーを設計し、組み立てるために。

2014年
ドリームIT研究所

URL:<http://www.dream-biz.jp/index.html>

企業が勝ち残るために 何が必要でどうするべきか

- なぜ、顧客に選ばれるか
- 差別化要因が必要です、そのための資源は、
- 人、金、もの、**情報**、
- その経営資源を有効利用して、PDCAを回す。

差別化のために、

何をするべきか？→達成するべきもの（目的：企業戦略）

目的を

どうやって達成するか？→方法（手段）

各省庁も企業戦略を実現する手段として、 ICTの利活用を推奨

ICTを有効利用して経営戦略を確実に実現することにより、他社に勝つ企業になります。各省庁のコメントもそのことを示しています。

“情報”の活用が市場競争力の強化の必要条件であること、そして情報システムの変化への対応力がそれを実現する鍵 経済産業省

「ICT成長戦略」の公表（総務省）

ICTは、新たな富の創出や生産活動の効率化に大きく貢献し、国民生活を便利にするものであり、**ICTの活用が経済成長のための重要な鍵**となっています。

ICTは、差別化の強力な武器となる

ICTは、他社に勝つための最新兵器の役割を果たします。



どんなに優秀な人材を多く抱えていても、竹槍(非IT化)しか武器がなければ、



最新兵器(経営戦略に合致した情報システム)で武装した組織には、勝てません。



例えば、試作品を手作業で作っている場合と3Dプリンタで作っている場合を比べると、市場投入までの期間も全く異なるし、コストも全く異なります。

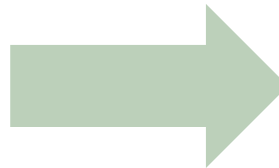


ITCを利活用するための 一般的導入手順

ICTを利用するために、情報システムを使う企業はITの専門の企業に情報システムの構築を依頼し、IT企業が依頼された内容に沿って情報システムを開発した後に入ります。



ICTを利用する
企業



情報システムを
提供する企業



下請

しかし、うまくICTを利活用できていない

目的とする企業戦略の実現を達成することができないケースが大多数。

日本におけるIT化の大きな問題点:

真に経営に役立っている
システム 約 23%

① 経営目標と開発されたシステムとの不整合

- a. 多くの資金と人をつぎ込みながら「真に経営に役立つシステム」が少ない。
- b. システム開発自体のスピードの遅さ。「労働集約型の個別開発が中心」

システム開発上の問題点

② ユーザ側のイニシアティブの欠如

- a. 経営トップのIT化に対するリーダーシップの欠如
- b. 過度なSIerへの依存/丸投げ
- c. ベンダ・ベースの「先ずツールありき」発想の弊害
- d. 経営とITとの両方をにらんだプロジェクト・マネジメントの不徹底さ

③ ウォータフォール型個別開発への偏重

- a. 高額な投資と開発期間の長期化
- b. 経営要求と要件定義との乖離
→“手戻りの多発”
- c. 本番稼働後の環境変化への迅速な対応不可
- d. システム・メンテ費用が掛かりすぎ(70数%)
前向き投資の余裕がない(20数%)
→“欧米とは逆比率”

ビジネス活動の主要要素

自社のことを一番よく知っているのは、自社の人間。

情報システムを使う側の業務(以下のビジネス活動要素)を知らないIT企業が顧客の経営戦略を実現する情報システムを設計できるわけがありません。

- 顧客
- サプライチェーン
- 扱う商品やサービス
- ビジネス・プロセス
- 業務機能
- ビジネス・ルール(判断とその結果の行動あるいは活動の基準)
- 情報
- 組織・役割・責任
- 営業所、支店、拠点、工場などの場所
- ITの仕組み(Web、クラウド、スマホ、ネットワーク)
- 企業理念・目標・戦略・収益・利益・社会貢献

- ◆ 顧客
- ◆ 商流
- ◆ 販売するモノ(製・商品)
- ◆ ビジネス・プロセス
- ◆ 業務機能
- ◆ ビジネス・ルール
- ◆ 情報
- ◆ 組織
- ◆ 配置
- ◆ (ビジネス)コンテキスト

準備をしないでIT企業に丸投げをすると

経営目的(企業戦略)とその達成手段である業務を情報システムでどのように改革するかを整理整頓してから情報システムの設計をしないと時間とお金を無駄にします。

- 情報システムの導入費用が膨大となる。
- 必要のない機能がてんこ盛りとなる。
- 欲しい機能が不足している。

経営効果のある情報システムを導入する方法論

誰でも修得可能な経営目的(企業戦略)達成のために業務を情報システムでどのように改革するかを整理整頓する方法論があります。

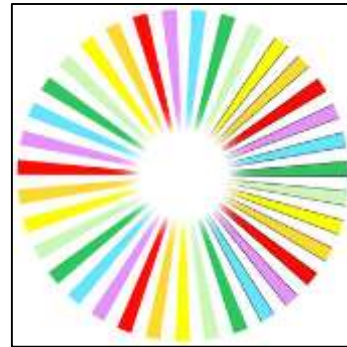
なんとなくは、分っているんだけど



- 目標
- 問題点・原因
- やるべきこと
- 時間軸
- 効果

ツールとテンプレートを
駆使した実践的超上流
メソドロジー

数値化してすべて
明確に



- 目標
- 問題点・原因
- やるべきこと(優先順位)
- スケジュールの明確化
- 効果算定



プロジェクト予算



プロジェクト予算化

開発時の手戻り、変更が激減

国際的にも評価の高いビジネス活動改善の方法論

国際システム監査協会、日科技連、経産省推進資格団体ITコーディネータ協会から高く評価されている方法論です。

ISCAジャーナルに掲載依頼を受け弊社方法論概要を執筆



2014年

ドリームIT研究

日科技連主催国際シンポジウムにて弊社メソドロジーを発表

Practical Methodology to control quality of IT project in upper stream^{*)} (Science of Success of IT project)^{*)}

Abstract: In Japan, more than 70% of IT project was recognized as failure project. Major cause of failure is analyzed as low quality of upper stream processes. Quality of IT project plan is depending on human skills in current processes. The methodology to control the quality which can summarize and streamline all stake holders' initiatives is created based on QFD technology. The methodology consists of more than 100 steps, templates, business process models and tools. The methodology have been applied many projects and got excellent results. ^{*)}

1. Problems of Japanese IT projects^{*)}

In Japan, currently, procedures of super upper stream of IT project is not clearly defined and automated, even lower process are clearly defined. As a result, lots of IT projects are not recognized success project. ^{*)}

More than 70% of IT projects were recognized as failure project in Japan. It originates in two following reasons. ^{*)}

1. Intentions of management are not extracted in upper stream of IT project. Only System which along the corporate strategy can achieve company goal. As a result, if intention of management is not reflect to system in planning phase, the system will not contribute to business. ^{*)}
2. Requirements of on-site are not are extracted and streamlined by managements' intention. System must along the on-site activities to bring effort and benefit to companies. ^{*)}

must be required to build efficiency system. ^{*)}

If direction of system is not match stake holders mind in super upper stream, the gap grows big whenever a process advances. As a result, it may happen that a project to be never completed or the system which are not used by end users. ^{*)}

Currently, that very important planning procedure is not clearly defined; therefore, quality of the project plan is depends on human skill sets. ^{*)}

Another problem happens, as well. Total optimization of system must be considered because increasing company merger and branch shrine, and the speed of the global expansion accelerates steadily; however, there is no person who understands all business in company. ^{*)}

In conclusion, helpful methodology and tools are required to help project planner in super upper stream. ^{*)}

2. Overview of SUSD methodology^{*)}

IT化計画策定方法論(SUSD)講習

権威ある団体から評価されているIT化計画策定の方法論を2日間の研修で修得できます。

研修内容:

(本研修では、ケーススタディ・ワークショップを通して、実践力を高めつつ、習得することができます。)

- ・現状のITプロジェクトの問題点と解決策の説明
- ・プロジェクト計画作成SUSDメソドロジー
- ・企業戦略の分析および優先順位度と重要度の数値化
- ・業務目標の分析および優先順位度と重要度の数値化
- ・改善のための取り組み項目の分析および優先順位度と重要度の数値化
- ・AS IS と TO BE の作成手法
- ・費用対効果の算出方法
- ・プロジェクトスケジュール
- ・RFP作成の注意事項
- ・プロジェクト体制について
- ・プロジェクト計画作成のためのビジネスプロセスモデリング概要

SUSD方法論考案者
木村 礼壮

多くの企業で経営効果をだしています。

大手自動車関連企業:
開発期間の30%を削減。
開発費用の30%を削減

大手流通業:
経費10%削減
売上10%向上

大手ハイテク企業:
開発期間を半減

2014年

ドリームIT研究所

Reiso Kimura

近著



ドリームIT研究所教育内容

- リーダー教育セミナー(2日間)
 - 顧客ビジネスと自社ビジネスの改革をリード
- プロジェクト計画策定メソッドコース(2日間)**
 - 利害関係者間の調整手法の修得
 - 顧客ビジネスプロセス改革手法の修得
 - 費用対効果算定方法論の修得
- ファシリテータコース(2日間)**
 - チームメンバを自発的に創造的活動へ導く技術の修得
- 業務のモデル化コース(2日間)**
 - 業務改革の心得とTo Be業務モデル作成方法
- クラウドコーディネータコース(半日間)**
 - 作るから組み立てる時代のデザイン力養成
 - ネットを基にしたモバイル・グローバル環境への柔軟性の習熟

**経産省認定ITコーディネータ協会認定教育コース